

米軍基地環境カルテ

キャンプ・ブーン（施設番号：FAC6053）

平成 29 年 3 月

沖 縄 県

目 次

51. キャンプ・ブーン（施設番号：FAC6053）	51-1
51.1 基本情報	51-1
51.1.1 名称	51-1
51.1.2 所在地、広さ（施設面積）	51-1
51.1.3 施設の概要等	51-1
51.1.4 施設の管理及び用途	51-1
51.1.5 施設・区域の返還時期（見込み）、返還後の利用状況	51-1
51.1.6 土地利用規制図	51-2
51.2 基地内の環境汚染の可能性に関する情報	51-2
51.2.1 基地等の土地の状況	51-2
51.2.1.1 地形分類図	51-2
51.2.1.2 表層地質図	51-2
51.2.1.3 土壌図	51-2
51.2.1.4 切盛土分布図	51-2
51.2.2 基地内の施設の使用状況	51-2
51.2.2.1 施設配置図（埋設物含む）	51-2
51.2.2.2 施設等使用履歴	51-2
51.3 基地等の環境状況	51-3
51.3.1 自然環境（植物）	51-3
51.3.1.1 現存植生図	51-3
51.3.1.2 植生自然度図	51-3
51.3.1.3 特定植物群落	51-3
51.3.1.4 重要な種、貴重な種等	51-3
51.3.2 自然環境（動物）	51-3
51.3.2.1 重要な種、貴重な種等	51-3
51.3.3 水利用状況	51-4
51.3.3.1 水利用状況	51-4
51.3.3.2 井戸・湧水の分布状況	51-5
51.3.3.3 河川及びダムの分布状況	51-6
51.3.4 地下水の状況	51-7
51.3.4.1 地下水基盤面等高線図	51-7
51.4 当該施設及び周辺における環境関連事故等	51-7
51.4.1 事故等の概要	51-7
51.4.2 事故等発生場所	51-7
51.5 環境調査を実施する場合の留意事項	51-7
51.6 その他情報	51-7

51.7 環境等に関する通常監視について	51-8
----------------------------	------

51. キャンプ・ブーン（施設番号：FAC6053）

51.1 基本情報

51.1.1 名称

キャンプ・ブーン（施設番号：FAC6053）

51.1.2 所在地、広さ（施設面積）

<昭和 47 年 5 月 15 日>

所在地：宜野湾市字地泊

広 さ：約 145,700 m²

出典：外務省ホームページ「沖縄の施設・区域（5・15 メモ等）（仮訳）」（1972 年 5 月）

(http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/usa/sfa/kyoutei/pdfs/02_03.pdf) を参照



図 51-1 キャンプ・ブーンの位置図（昭和 47 年時）

51.1.3 施設の概要等

昭和 49 年 12 月 10 日、全部返還。

51.1.4 施設の管理及び用途

昭和 49 年 12 月 10 日、全部返還。

51.1.5 施設・区域の返還時期（見込み）、返還後の利用状況

返還跡地は宇地泊地区土地区画整理事業が実施され、宅地、公園などが整備されている。

出典：「沖縄の米軍基地」（平成 25 年 3 月、沖縄県知事公室基地対策課）より引用

51.1.6 土地利用規制図

キャンプ・ブーン跡地及び周辺の土地利用規制図を図面集「土地利用規制図C」に示す。

51.2 基地内の環境汚染の可能性に関する情報

51.2.1 基地等の土地の状況

51.2.1.1 地形分類図

キャンプ・ブーン跡地及び周辺の地形分類図を図面集「地形分類図C」に示す。

51.2.1.2 表層地質図

キャンプ・ブーン跡地及び周辺の表層地質図を図面集「表層地質図C」に示す。

51.2.1.3 土壌図

キャンプ・ブーン跡地及び周辺の土壌図を図面集「土壌図C」に示す。

51.2.1.4 切盛土分布図

キャンプ・ブーン跡地の切盛土分布図は作成されていない。

51.2.2 基地内の施設の使用状況

51.2.2.1 施設配置図（埋設物含む）

キャンプ・ブーンの施設配置図は確認できなかった。

51.2.2.2 施設等使用履歴

年月日不詳 戦後逸早く米軍によって接收され、陸軍の民間人事部、ガードの司令部、野外集積場、陸軍中央パス発行所、USA憲兵司令部等、基地の治安維持、保全を図るための施設として使用。

昭和44年10月31日 約2,000㎡を返還。

昭和47年5月15日 「キャンプ・ブーン」として提供開始（使用主目的：学校・倉庫及び事務所）。

昭和49年12月10日 全部返還。

出典：「沖縄の米軍基地関係資料」（昭和47年11月、沖縄県総務部渉外課）、
「返還軍用地の施設別概要」（昭和53年3月、沖縄県企画調整部軍用地転用対策室）、
「沖縄の米軍基地」（平成25年3月、沖縄県知事公室基地対策課）を参照

<主要建物及び工作物>

建物：事務室、診療室、娯楽場、ガンクラブ、ボーイスカウト、技術開発室、貯蔵庫等（計59棟）

工作物：野球場、フェンス、上下水道設備、道路、照明装置等（計15件）

出典：「返還軍用地の施設別概要」（昭和53年3月、沖縄県企画調整部軍用地転用対策室）より引用

51.3 基地等の環境状況

51.3.1 自然環境（植物）

51.3.1.1 現存植生図

キャンプ・ブーン跡地及び周辺の現存植生図を図面集「現存植生図C」に示す。

51.3.1.2 植生自然度図

キャンプ・ブーン跡地及び周辺の植生自然度図を図面集「植生自然度図C」に示す。

51.3.1.3 特定植物群落

キャンプ・ブーン跡地及び周辺において、特定植物群落の該当はない。

出典：「自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」（平成12年3月、環境庁自然保護局生物多様性センター）を参照

51.3.1.4 重要な種、貴重な種等

キャンプ・ブーン跡地のある宜野湾市で確認された重要な種、貴重な種等（植物）は39種類ある。

出典：「宜野湾市史 第九巻資料編八 自然」（2000、沖縄県宜野湾市教育委員会文化課）を参照

次に、キャンプ・ブーン跡地及び周辺の重要な種、貴重な種等（植物）を表51-1に示す。キャンプ・ブーン跡地及び周辺の宜野湾市指定天然記念物として「大謝名メヌカー淡水紅藻」がある。

表 51-1 キャンプ・ブーン跡地及び周辺の重要な種、貴重な種等（植物）

No.	名称	所在地	区分
1	大謝名メヌカー淡水紅藻	宜野湾市大謝名	宜野湾市指定天然記念物

出典：「～平成27年度版～文化財課要覧」（2015、沖縄県教育庁文化財課）を参照

51.3.2 自然環境（動物）

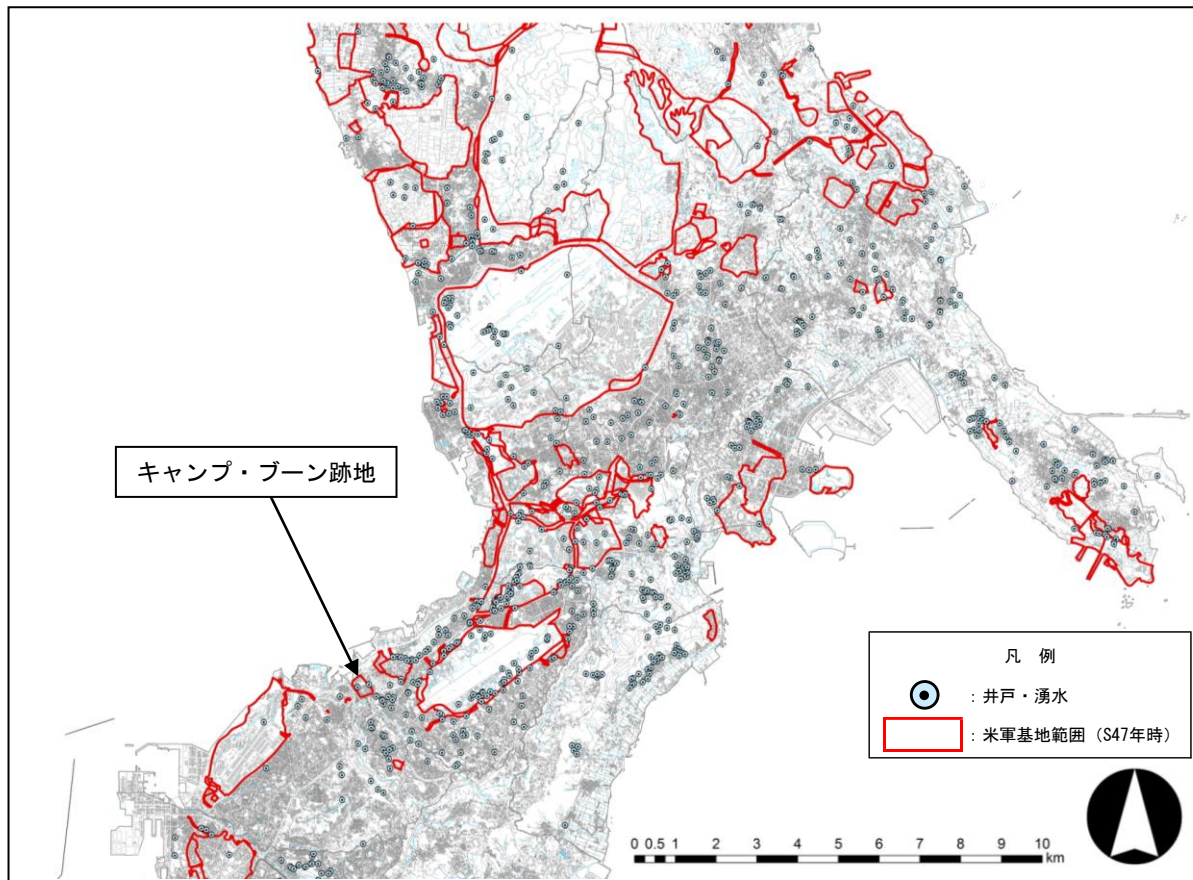
51.3.2.1 重要な種、貴重な種等

キャンプ・ブーンのある宜野湾市で生息が確認された重要な種、貴重な種等（動物）は126種類いる。

出典：「宜野湾市史 第九巻資料編八 自然」（2000、沖縄県宜野湾市教育委員会文化課）を参照

51.3.3.2 井戸・湧水の分布状況

キャンプ・ブーン跡地及び周辺の井戸・湧水分布状況を図 51-3 に示す。



「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用した。（承認番号 平成 29 情使、 第 269 号）」

注：本図には、史書等より情報を得た井戸・湧水の位置も示されていることから、その存在や状態については、活用者が確認する必要がある。

出典：別途記載

図 51-3 キャンプ・ブーン跡地及び周辺の井戸・湧水分布状況

51.3.3.3 河川及びダムの分布状況

キャンプ・ブーン跡地及び周辺の河川、ダム分布状況及びその概要を図 51-4、表 51-2 に示す。
キャンプ・ブーン跡地及び周辺には、二級河川が 2 本ある。

なお、周辺に国・県管理ダムはない。



「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図（タイル）を複製したものである。（承認番号 平成 29 情複、第 301 号）」
出典：「国土地理院地図（平成29年 3 月）」、「国土数値情報のデータ（河川情報）」、
「沖縄の米軍基地関係資料（地位協定に基づく提供施設）」（昭和47年11月、沖縄県総務部）、
「返還軍用地の施設別概要」（昭和53年 3 月、沖縄県企画調整部）を参照

図 51-4 キャンプ・ブーン跡地及び周辺の河川、ダム分布状況

表 51-2 キャンプ・ブーン跡地及び周辺の二級河川の概要

牧港川水系	宇地泊川	指定延長：6,000m	流域面積：8.05km ²
指定区間：（左岸）中城村字南上原葦山原 858 番地先から牧港川合流点に至る （右岸）西原町字千原道田原 96 番地の 1 地先から牧港合流点に至る			
牧港川水系	牧港川	指定延長：3,300m	流域面積：15.17km ²
指定区間：（左岸）浦添市字当山東原 729 番地先から海に至る （右岸）浦添市字当山勢理原 577 番地先から海に至る			

出典：沖縄県ホームページ「沖縄の河川資料室」

(<http://www.pref.okinawa.jp/site/doboku/kasen/kanri/okinawanokasensiryou.html>（平成 28 年 8 月 23 日閲覧）を参照

51.3.4 地下水の状況

51.3.4.1 地下水基盤面等高線図

キャンプ・ブーン跡地及び周辺の地下水基盤面等高線図を図面集「地下水基盤面等高線図C」に示す。

51.4 当該施設及び周辺における環境関連事故等

51.4.1 事故等の概要

キャンプ・ブーン及び周辺における米軍の活動に起因する環境関連事故等の情報は、「沖縄の米軍基地」（沖縄県）、「環境白書」（沖縄県）では確認できなかった。

出典：「沖縄の米軍基地」（平成 15 年 3 月、沖縄県基地対策室）、
「沖縄の米軍基地」（平成 20 年 3 月、沖縄県知事公室基地対策課）、
「沖縄の米軍基地」（平成 25 年 3 月、沖縄県知事公室基地対策課）、
「環境白書【平成 24 年度報告】」（2014、沖縄県環境部環境政策課）、
「環境白書【平成 25 年度報告】」（2015、沖縄県環境部環境政策課）、
「環境白書【平成 26 年度報告】」（2016、沖縄県環境部環境政策課）を参照

51.4.2 事故等発生場所

キャンプ・ブーン及び周辺における米軍の活動に起因する環境関連事故等発生場所の情報は確認できなかった。

51.5 環境調査を実施する場合の留意事項

特になし。

51.6 その他情報

沖縄県が、米国立公文書記録管理局（National Archives and Records Administration, NARA）（以下、「NARA」と言う。）で収集した在日米軍関係資料のうち、キャンプ・ブーン及び周辺に関する環境関連情報の概要を表 51-3 に示す。

キャンプ・ブーン及び周辺については、以下の資料が確認された。

表 51-3 キャンプ・ブーン及び周辺に関する環境関連情報の概要（NARA 収蔵）

年月日	場所	資料の種類	概要
1966 年 7 月 20 日	－	文書	各部隊の駐屯地や施設が、どの基地に存在するかが記されている。キャンプ・ブーンには、Ryukyuan Employment Branch があった。
1957 年 5 月 24 日	ガス（毒ガス）室、キャンプ・ブーンのビル T-55	文書	実戦を意識した訓練を伊佐浜、泡瀬半島、普天間、ボロー・ポイント、読谷、与那原、松田レンジ、栄野比、宜野座、漢那、金武、喜瀬武原、屋嘉、ギンバル、北部訓練場、キャンプ・ブーン等で実施することについて記されている。
1969 年 3 月 28 日	－	文書	ベトナム戦争で使われた機器の修理や処理に関する記事。陸揚げ場所は那覇港、保管、修理、処理場所は牧港補給地区やキャンプ・ブーンであったこと、また、保管、作業等の様子を写した写真が掲載されている。
1959 年 3 月 31 日	燃料タンク	図	建物番号、施設リスト及び用途が記載された牧港 J エリアの施設配置図。燃料タンク（Fuel tank）の位置が記されている。リストの中にはやガス室（Gas Chamber）が記されている。

51.7 環境等に関する通常監視について

キャンプ・ブーン及び周辺において、沖縄県による環境等に関する通常監視は行われていなかった。

出典：「昭和 51 年度版 環境白書」（1977、沖縄県）、
「昭和 53～平成 16 年版 環境白書（昭和 52～平成 15 年度年次報告）」（1978～2005、沖縄県）、
「環境白書【平成 16～26 年度報告】」（2006～2016、沖縄県）を参照

